

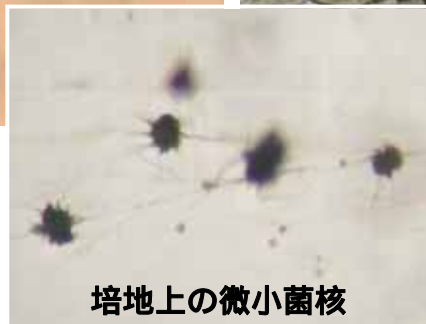
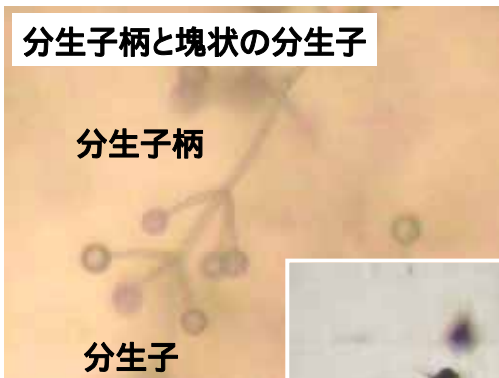
平成23年度病害虫発生予報第1号(4月予報)

<お知らせ> 平成23年3月末をもって、北部駐在は閉所となりました。

今月のトピックス

半身萎凋病(オクラ)

学名 : *Verticillium dahliae*



生態と被害

下葉から黄化や萎凋がはじまり、葉縁が巻き、徐々に上部へ進展する。やがて下葉から落葉し、立枯れを起こす。茎や葉柄の導管部は褐変する。

本菌は罹病作物体上で多数の微小菌核を作り、これが土壌中に長期間残り、伝染源となる。病原菌は、根から作物に侵入し、導管を通して作物の全身に広がる。発病適温は23～28℃。多犯性で、ナス科、ウリ科、アブラナ科ほか多くの植物に病原性を示す。

オクラにおける本病の発生は、国内では昭和51年に愛知県で初めて報告され、その後北海道、東京都、高知県、群馬県など各地で報告されているが、沖縄県では平成22年4月に初めて確認された。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

4月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	50	20

(平成23年3月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	21.3	24.0	18.9	180.7	134.1
宮古群島(宮古島)	22.3	25.1	20.1	174.8	133.4
八重山群島(石垣島)	23.2	25.8	21.0	153.9	137.2

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

4月の発生予報概要

作物	病害虫名	発生量		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	メイチュウ類	-	-	やや少

その他注意すべき病害虫等

本文中では (白丸)にて表記

作物	病害虫名	対象地域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	カンシャコバネナガカメムシ			
かんきつ (シークワサー)	そうか病			
	ミカンキジラミ			
マンゴー	炭疽病			
	灰色かび病・うどんこ病			
	チャノキイロアザミウマ			
	ハダニ類			
きゅうり(施設)	べと病			
かぼちゃ	モザイク病			
	うどんこ病			
とうがん(施設)	ミナミキイロアザミウマ			
にがうり(施設)	うどんこ病			
	ミナミキイロアザミウマ			
オクラ	アブラムシ類			

予報の見方

- (1) 発生予察情報は、前月の調査に基づき発生程度が「並」以上の病害虫を中心に掲載しています。「やや少」以下の病害虫については通常掲載していません。
- (2) 「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にしてください。

平成23年度沖縄群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

4月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	50	20

(平成23年3月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	21.3	24.0	18.9	180.7	134.1

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

4月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

カンシャコバナナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は0.7頭(前年0.7頭、平年0.9頭)と平年並であった。
- b 2～3月の気温に基づき、3月23日時点での防除適期は、沖縄本島及び周辺諸島で平年より1日早く、南・北大東島で平年より2日早いと予想される。
- c この時期に茎当たり虫数が15頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
- d 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月23日現在)

地域別	防除適期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月17日～5月1日	4月24日	4月25日	1日早い
南・北大東島	4月11日～4月25日	4月18日	4月20日	2日早い

平年値は、過去10年間の日平均気温の平均値より算出

2 かんきつ(シークワーサー)

そうか病の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、発病葉率は9.0%(前月10.0%)で、発病度は1.3(前月1.8)であった。
- b 伝染源となる罹病葉をできるだけ除去し、雨滴や露が早く乾くように園内の通風採光を良くする。
- c 窒素肥料の過剰施用や強剪定は軟弱な枝葉の発生を助長し被害を大きくするので注意する。

ミカンキジラミの防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、成虫密度は0.6頭(前年2.8頭)で、幼虫密度は5.7頭(前年2.6頭)であった。
- b 好適寄主のひとつであるゲッキツでの成虫密度は2.0頭(前年4.6頭)で、幼虫密度は23.9頭(前年35.2頭)であった。
- c 本種はカンキツグリーニング病の媒介虫であり、春は媒介時期であることから薬剤による防除を徹底する。
- d カンキツグリーニング病の拡大を防ぐため、本種の寄生したかんきつやゲッキツの移動を自粛する。

3 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- b 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 結実期以降は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

灰色かび病・うどんこ病の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、一部園地において本病の発生が確認された。
- b 罹病した部位はビニール袋に入れて、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 通風採光をよくする。
- d 早期発見・早期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0頭、平年0.1頭未満)であった。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0.1頭、平年0.1頭未満)であった。
- b 今後気温の上昇に伴い増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

4 きゅうり(施設)

べと病の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、発病葉率は12.5%であった。また、一部の施設で発生が多くみられた。
- b 湿度が高く気温が20 前後の時によく発生することから、換気を十分に行う。
- c 被害葉は施設内から持ち出し処分する。
- d 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。

5 かぼちゃ

うどんこ病の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、発病葉率は72.5%で、ほとんどの圃場で多発の傾向にあった。
- b 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- c 防除を徹底し、収穫時まで出来るだけ多くの健全葉を確保する。

平成23年度宮古群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

4月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	50	20

(平成23年3月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	22.3	25.1	20.1	174.8	133.4

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

4月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

カンショコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は5.6頭(前年122.1頭、平年40.6頭)と平年よりやや少なかった。
- b 2～3月の気温に基づき、3月21日時点での防除適期は、2月以降の気温が低かったことから、平年より宮古島で4日、多良間島で6日程度遅いと予想される。
- c この時期に茎当たり虫数が15頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
- d 薬剤防除の際は周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう、風向きに注意する。

防除適期予想日(3月21日現在)

地域別	防除適期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
宮古島	4月9日～4月23日	4月16日	4月12日	4日遅い
多良間島	4月7日～4月21日	4月14日	4月8日	6日遅い

平年値は、過去10年間の日平均気温の平均値より算出。

2 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、一部園地で発生がみられた。
- b 本病の病原菌は花穂や葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 結実期以降は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0.6頭、平年0.4頭)であった。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は2.3頭(前年0.2頭)であった。
- b 今後気温の上昇に伴い増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

3 かぼちゃ

モザイク病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、一部圃場で多発生がみられた。
- b 着果前の発病株は、抜き取って圃場外に持ち出し処分する。また健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の後に行う。
- c 媒介虫であるアブラムシ類の防除を徹底する。
- d 本病の感染源およびアブラムシ類の発生源となる圃場内外の雑草を除去する。

うどんこ病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、発病葉率は86.0%(前月74.0%)、発病度は26.5(前月25.7)であった。
- b 株元の老葉を除去し、透光通風をよくする。
- c 防除を徹底し、収穫時までできるだけ多くの健全葉を確保する。

4 とうがん(施設)

ミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.8頭)で、つる先当たりの成虫数は0.3頭(前年13.8頭)であった。
- b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 にがうり(施設)

うどんこ病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、発病葉率は5.3%(前年17.0%)、発病度は1.3(前年4.8)であった。
- b 被害葉は除去し、生育に応じて老葉などを摘葉して、透光通風をよくする。
- c 多発すると防除が困難になるので、早期防除に努める。

ミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満(前年0.1頭)であった。
- b 発生源となる老葉や圃場内外の雑草を除去する。
- c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

平成23年度八重山群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

4月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	50	20

(平成23年3月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	23.2	25.8	21.0	153.9	137.2

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

4月の発生予報および防除上の注意事項

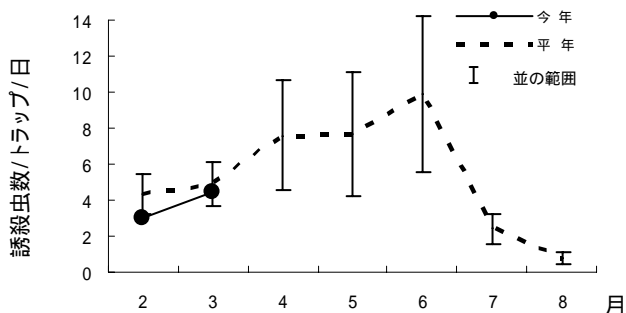
(1) メイチュウ類

発生程度 : やや少

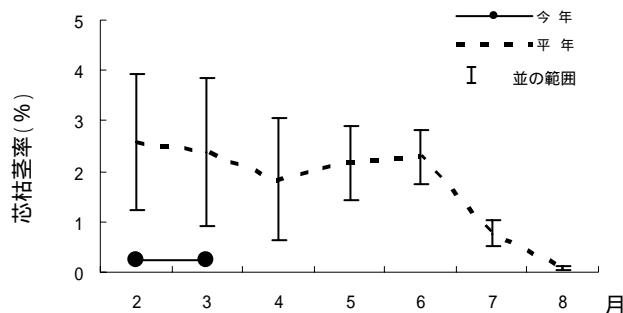
予報の根拠

a 3月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによる、トラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.4頭(前年5.9頭、平年4.8頭)と平年並であった。

b 3月下旬の調査の結果、新植圃場における芯枯茎率は0.2%(前年0.1%未満、平年2.4%)と平年よりやや低かった。



カンシャシンクイハマキの誘殺虫数の推移



春植における芯枯茎率の推移

< 防除上注意すべき事項 >

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。

カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は3.9頭(前年78.4頭、平年33.8頭)と平年よりやや少なかった。
- b 2～3月の気温に基づく、3月22日時点での防除適期は、2月以降の気温が低かったことから、平年より石垣島及び周辺離島で4日、与那国島で6日程度遅いと予想される。
- c この時期に茎当たり虫数が15頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
- d 薬剤防除の際は周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月22日現在)

地域別	防 除 適 期	2.5齡期予想日		
		本年	平年	平年差
石垣島及び周辺離島	4月3日～4月17日	4月10日	4月6日	4日遅い
与那国島	4月7日～4月21日	4月14日	4月8日	6日遅い

平年値は、過去10年間の日平均気温の平均値より算出。

2 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、一部園地で発生がみられた。
- b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 開花期には予防効果のある薬剤、結実期以降は治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0頭、平年0.6頭)であった。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(平年0.4頭)であった。
- b 今後気温の上昇に伴い増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

3 オクラ

生育初期のアブラムシ類の防除対策

- a 例年、トンネル被覆除去後にアブラムシ類の寄生がみられることから、シルバーテープ等を利用して飛来を防止する。
- b 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので除草する。
- c 多発すると葉は萎縮し、初期生育に影響を及ぼすので、早期発見・早期防除に努める。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

本 所 〒902-0072 那覇市字真地123
TEL 098-886-3880、098-886-0227
FAX 098-884-9119

宮古駐在 〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内)
TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474

八重山駐在 〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内)
TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157